

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回御宿町地域公共交通活性化協議会		
開催日時	令和5年10月4日（金）13時30分 開会 14時30分 閉会		
開催場所	御宿町役場 中会議室		
会長氏名	御宿町長 石田義廣		
出席者氏名 (8名)	・御宿町長	石田 義廣	委員
	・小湊鉄道株式会社バス部部长	深山 宏樹	委員
		(代理) 浴口 史子	様
	・住民又は利用者の代表	堀川 賢治	委員
	・国土交通省関東運輸局 千葉運輸支局首席運輸企画専門官	小林 聡	委員
	・小湊鉄道労働組合書記長	清水 崇志	委員
	・夷隅土木事務所長	堀越 宏喜	委員
		(代理) 今村 康士	様
	・いすみ警察署交通課長	坂井 陽一	委員
		(代理) 吹野 正巳	様
	・千葉県総合企画部交通計画課 企画調整班	小松 直人	委員
		(代理) 山下 真毅	様
	・一般社団法人千葉県タクシー協会理事	松本 眞	委員
	・JR東日本旅客鉄道株式会社勝浦駅長	小口 宗昭	委員
欠席者氏名 (1名)	・一般社団法人千葉県バス協会専務理	成田 斉	委員
事務局氏名	御宿町企画財政課	課長 渡邊 和弥 課長補佐 柴原 進一 主事 長谷 真子	
会 議 次 第	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 議題 (1) 御宿町地域公共交通計画骨子（案）について (2) ワークショップの開催について 4. その他 5. 閉会		

<議事要旨>

事務局（柴原）

それでは、御宿町地域公共交通活性化協議会を開催します。
はじめに、石田会長よりご挨拶申し上げます。

石田会長

本日はお忙しいなか、第2回御宿町地域公共交通活性化協議会にご出席いただきましてありがとうございます。

本日の内容は、『町地域公共交通計画骨子（案）とワークショップの開催について』その進捗とスケジュールについて説明があります。

ご協議のほど、よろしく申し上げます。

事務局（柴原）

ありがとうございました。本日の出席者は出席者名簿のとおりです。

ご確認ください。本日の会議は委員の半数の出席がありますので成立しております。

それでは、議題に移ります。

交通会議の運営は会長が議長ですので、これより進行は会長に申し上げます。
よろしく申し上げます。

石田会長

それでは、議題にうつります前に、御宿町地域公共交通計画策定業務を委託するランドブレイン株式会社様に事業説明者として出席していただきますのでご了承ください。

ランドブレイン(株)（井口、佐久間）

ランドブレイン株式会社です。どうぞよろしくお願ひいたします。

石田会長

それでは、議題（1）御宿町地域公共交通計画骨子（案）について事務局から説明をお願いします。

事務局（長谷）

それでは、お手元の資料をご覧ください。

地域公共交通計画の骨子（案）ということで、町内の公共交通の現状は鉄道をはじめ、高速バスや路線バス、タクシー、乗合運行エビアミー号が運行されていますが、高齢化の進展や免許返納者の増加により、交通ニーズへの対応が十分でない状況にあります。

地方部において共通の課題であり、今後さらにその傾向は強まっていくと想定されます。

そのようななかで、地域住民の暮らしを守りつつ、利便性を高めるため、町内の公共交通の維持と各公共交通機関の連携により持続可能な交通網を形成する御宿町地域公共交通計画を策定します。

対象地域は町内全域で、計画期間は令和6年度から10年度までの5年間とします。

今回お示しします骨子（案）では、町と公共交通の利用人数等のデータを踏まえた現状把握と課題の整理、公共交通利用者や交通事業者などへのアンケート調査の内容、近隣自治体における課題について集計し、内容を整理しております。また、昨年策定しました第5次御宿町総合計画や御宿町人口ビジョン及び御宿町のまち・ひと・しごと創生総合戦略などの上位関連計画における公共交通の位置づけを踏まえた上で、策定します。

地域公共交通の課題は、資料40～41ページにてお示ししています。移動手段を確保することはもちろん、地域に合った交通サービスの維持と利便性向上、近隣市町との連携によるエリアの拡大、他分野との連携による利用促進があげられております。

また、現時点での集計内容であります。5月から実施しました町民アンケートのほか、公共交通事業者アンケートなどの詳細等については、ランドブレインから説明してもらいます。

ランドブレイン株式会社（井口）

第5章意向把握調査という部分から説明させていただきます。

まずは16ページの(1)町民アンケート調査について、昨年度総合計画を作成した際の結果で、公共交通計画に関わる部分だけを抜粋して掲載をしています。通勤通学における利用交通手段では通勤通学をしていない人を除き自家用車が最も多く次いで鉄道、自転車となっています。年代別にみると30代～40代は自家用車が8割を超えており、10代～20代では鉄道の利用が多い結果となっています。

17ページの日常生活における移動実態では、通院、通学すべてにおいて御宿町の外に出ている方が過半数以上となっています。

18ページの公共交通の利用実態では、30代～60代では「利用したいと思わない・利用しない」という回答が多い一方、10代、20代では通勤、通学により「日常的に利用している」という方が多くなっています。年齢が上がるにつれ現在利用していないが、今後利用したという方が多くなっています。自家用車に乗れるうちに乗っておこうと、自家用車依存の傾向にあると読み取れます。

20ページからは、(3)公共交通利用者に対するアンケート調査を実施しました。鉄道利用者について、令和5年7月19日(水)御宿駅にてヒアリング調査を実施しました。回収サンプルとしては113サンプルとなっております。回答者の利用目的としては通勤が最も多く、町内では通学、町外では観光という順番になっております。満足度につきまして、総合的に満足度が40%となっております。項目別に見ますと運行本数と運行時間帯の項目が不満度がやや高い、運行時間帯の定時制(正確さ)については満足度が高い傾向にあります。鉄道に関する要望としては、運行時間の拡大や運行本数増便がいずれも50%となっています。その他の意見としてはエスカレーターやエレベーターの設置に関する意見が多くなっています。

22、23ページ、の高速バス利用者及び路線バス利用者のアンケート調査はサンプ

ルが少なく、高速バスは7サンプル、路線バス利用者は2サンプルのみとなっています。

24 ページからはエビアミー号登録者のアンケート調査を実施しました。エビアミー号登録者 614 世帯に対し配布を行いました。614 世帯であるが、アンケート調査票自体は 894 名の方に配布しています。調査期間は令和 5 年 7 月 14 日(金)～31 日(月)の 2 週間実施を行いました。回答数は 485 サンプルとなっていて、回収率 54.3%と多くの回答が集まっている。

25 ページの詳細分析【エビアミー号登録者の利用状況、利用意向】では登録理由で「利用する時が来ると思うから」が半数以上を占めています。次に「移動手段がなくて困っていたから」、「家族や友人に送迎を頼めない時に利用するため」となっています。利用頻度は「利用していない」が半数以上占めていて、次いで「年に数回」と利用頻度が低い状況となっています。運行便数については全体として 40%程度が「現行通りでよい」と回答する一方、特に御宿台では「もっと遅い時間まで運行してほしい」「早くから運行してほしい」という回答も多くなっています。満足度は「運行時間帯」の不満足度が他の項目と比較して高い傾向となっています。今後期待することは「予約なく利用できること」「運行時間帯が拡大すること」、「乗降地点が拡大されること」と回答が得られています。

27 ページエビアミー号利用状況での利用目的は、「買い物」「通院」が多くを占めています。目的地は「御宿駅」が最も多く、次いで「役場」「御宿郵便局」スーパーおたや前の「旧第 2 分団新町消防庫前」の一定数の利用があります。利用方法は「片道利用」が「往復利用」より多く、特にまちなかエリアや御宿台では片道利用率が高いです。片道利用の理由としては「利用したい時間帯に運行していないから」「事前の予約ができなかったから」等が挙がっています。そういった時の代替交通手段としては「一般タクシーを利用する」が最も多く、次いで「自転車や徒歩で利用する」「家族、親族、友人の車で送迎してもらう」となっています。エビアミー号の位置情報配信サービスについて、「利用したことがある」は 21.2%ととどまっています。利用したことがない理由については、「サービスを知らないから」「利用の仕方が分からないから」等が挙がっています。今後のエビアミー号の利用意向としては「今後も変わらず利用したい」「利用回数が増えると思う」が多い一方、「利用回数が減ると思う」「そのうち利用しなくなると思う」といった回答も一定数みられます。

30 ページ、エビアミー号の利用登録はしているが利用はしていない方の理由としては「自家用車が便利だから」が半数を占めており、次いで「利用する用事が特に無いから」「予約が面倒だから」という理由もありました。利用するための条件としては「運転ができなくなったら利用する」が最も多く、「利用したい時間帯に運行されれば利用する」「運賃が安くなれば利用する」となっており自家用車からの脱却といったものが課題となっていくと考えられます。

31 ページからは東京、千葉、神奈川県居住で御宿町を訪れたことがある方を対象として、旅行者アンケートを実施しました。来訪目的としては「観光」が半数を占めており、来訪先としては「月の沙漠記念館」「御宿ウォーターパーク」「中央海水浴」と

なっています。

来訪時の移動手段は「自家用車」が最も多いですが「鉄道」も 3 割程度、「高速バス」が 1 割程度となっています。

33 ページの観光周遊する際の不便度や必要情報・サービスですが、「移動時に不便を感じることが多い」「たまに不便を感じるが多い」と回答した方は全体の 5 割以上となっており、半数以上が不便を感じたことがある結果となっています。必要な情報やサービスは「観光地のモデルコースの紹介など情報案内等の充実」「観光地等でのイベントや施設情報などの統一的な情報の提供」となっています。

34 ページからは事業者アンケートを実施しています。JR へのアンケート回答では、利用者の現状と課題として、少子化やモータリゼーションの進展、新型コロナウイルスを契機としたライフスタイル等の変化による利用者の減少、利用者は戻りつつあるが、厳しい状況が続くと回答されています。運行上・経営上の問題点としては、持続可能な公共交通ネットワーク維持のためには、自治体や地元の皆様のご理解ご協力を得ながら、利用状況を踏まえた列車ダイヤの見直し、設備のスリム化など様々なコストダウンに取り組む必要があると回答。利用促進・利便性向上・経営改善等のための取組としては、伴走型地域づくりとして、御宿町へ乗車人員・収支状況の説明を行い、現状認識を共有し利用者増に向けたコミュニケーションを取っていることが挙げられます。利用者からの声としては、エレベーターの設置要望。その他の意見として、持続的な公共交通ネットワーク維持のために駅舎活用を検討していく必要があと回答しています。

次に 35 ページの高速バス事業者からは、現状として観光客の利用が多いこと、利用者からの声として木更津金田バスターミナルでの乗降を可能にしてほしい等が挙げられます。行政への要望としては、他の市町村ではなく、行先に御宿を選んでもらえるような町の魅力を発信してほしい。他の自治体が展開しているような、高速バスのラッピング広告実施を検討してほしいといった回答がありました。路線バスに関しては、平日は買い物、市外への通院の高齢者が多く、土日祝日は買い物客や観光客が多い状況です。運行上・経営上での問題点としては、赤字路線として路線を維持することが難しくなっている。また乗務員不足、乗務員の高齢化が挙げられています。さらに、夏期の土日祝日は海水浴・ウォーターパーク等観光客の増加に伴い混雑が発生していること等が挙げられています。

36 ページのエビアミー号では、病院への通院、スーパー等商業施設への利用が大半であり、郵便局・銀行といった金融機関や町役場等の行政機関への利用が次に多いです。利用者も増加傾向にあり、直近 3 か月は月 500 人以上の利用を記録しています。運行上・経営上の問題点としては乗務員不足、乗務員の高齢化が挙げられています。続いては、関連事業者アンケートです。商工会からでは、御宿町商店振興会がポイントカードを新しくする予定であり、エビアミー号の利用者にポイントを付与していただくと商業施設利用者が増えるのではないかといい意見がありました。また、来訪者や商業施設からの声では、鉄道が存続するためには、運賃を値上げして、行政が負担するだけでなく、利用者の負担増加も仕方のないことです。社会福祉協議会は、高齢者や障がい者からの声として、手続きをもう少し簡略化し、気軽に使えるようにしてほしいといった要望がありました。行政への要望としては、JR 御宿駅のみどりの窓口を再開してほしい、御宿駅の駐車料金をもう少し安くしてほしいといった意見が

ありました。

37 ページの教育委員会は、混乗については現在検討していないが、スクールバスの運行時間以外での利用は可能と回答があります。

続いて、38 ページの近隣自治体でのアンケート調査です。

いすみ市では、広域アクセスやまちづくりとの連携を図った利便性の高い公共交通網の構築や多様な主体との連携によるまちづくりと一体となった持続可能な公共交通の形成等が課題として挙げられており、解決に向けた取組としては交通結節点の機能強化等が挙げられています。

勝浦市では、路線バスダイヤの見直しやモビリティ・マネジメントの推進により「既存の交通インフラの有効活用」について認識を深め、地域住民や企業など地域全体で公共交通を維持していく機運の醸成を図っています。御宿町との連携の可能性として、勝浦と御宿を結ぶバス路線のデマンド交通へのモード変更などについて協議させていただきたいという意見をいただいています。

大多喜町では、町内交通不便地域の散財という課題に対して、町内交通不便地域へのデマンド型乗合交通の導入等を検討しています。また、地域輸送資源の総動員として、平成 30 年 10 月から、中学校統合に伴い運行を開始したスクールワゴンの空き時間を活用し、交通不便地域にデマンド型乗合交通を運行しています。

各調査のまとめとして 40 ページの 6. 地域公共交通の課題に掲載しております。詳細としては 41 ページ確認をご確認ください。

御宿町の地域公共交通の課題として、①高齢者や学生等の日常生活における移動手段の確保として、高齢者だけではなく、子供達の移動手段も考えなければいけません。②地域の特性に応じた交通サービス・交通環境の提供としており、町内エリア毎のニーズに考慮した運行サービスの見直しを行うとともに、御宿駅や御宿公民館等における交通機関同士の乗り継ぎ利便性の強化、運行情報案内の充実等、交通結節点として分かりやすく利用しやすい環境整備を行うことで、地域公共交通全体の満足度向上を図ることが必要であると考えます。課題③近隣市町村との連携による広域アクセスの利便性向上は、日常生活で御宿外を行き先とすることが多く、いすみ市・勝浦市との連携する必要性があると考えられます。最後に課題④多様な主体・多分野との連携による利用促進では、住民意識の醸成による自家用車から地域公共交通の利用転換や、情報発信の強化・観光バスの導入検討等の観光産業との連携、また岩和田団地の跡地活用を見据えた新たなニーズや連携可能性も視野に入れながら多様な主体・分野を巻き込んだ公共交通の利用促進が必要であると考えられます。

説明は以上です。

石田会長

ありがとうございました。

このことについて、委員の皆様、なにかございますか。

小林委員

3点質問があります。まず1点目は高速バス利用者、路線バス利用者アンケートの母数が少ないが、今後追加アンケートの予定はあるのか。そういった方向性があるのなら教えていただきたい。

2点目は交通事業者のアンケートについて、36ページのタクシー事業者、観光協会等は回答の記載がないが、どのような予定でしょうか。

3点目は38、39ページで近隣自治体のアンケート調査も行っています。前回会議の資料では調査項目として、課題と取組状況等の記載があったかと思いますが、勝浦市では地域公共交通の課題・取組状況の項目自体が載っていません。回答があったが載せていないだけなのか、そもそも調査内容が各自治体で異なるのか教えていただきたい。

石田会長

ただいま、3つの質問がありました。それぞれお答えいただけますか。

ランドブレイン 井口

まず、高速バスおよび路線バス利用者調査について追加調査は予定しておりません。昨年度、弊社は勝浦市で同様の調査を行っており、そちらの調査結果を参考にして総合的に評価することと考えています。もしくは、事業の中で調査自体を参考意見として載せるといった工夫をしていく等、事務局と調整を行います。

回答が得られていない事業者アンケートについての対応は今後事務局と協議をすすめていきたいと思えます。回答をいただけていない、タクシー、観光協会、商業施設に対しては、何かしらの督促を行うことは考えています。

近隣自治体アンケート調査については同様のアンケート調査票を使って実施しており、今回は回答の抜粋として掲載しています。近隣自治体調査については、実際に計画書内に回答結果を入れ込むのか、参考意見として事務局の手持ち資料とするのかは今後調整する予定です。今回は進捗として載せているが、近隣自治体の意向もあると思うので取り扱いについては調整を行います。

堀川委員

40ページの課題③について、現在町内でデマンドが走っているが、例えば勝浦市やいすみ市との連携の可能性として何か問題はないのでしょうか。

石田会長

一番重要な視点であり難しいところだと思います。現在運行しているエビアミー号や運行事業者とうまく連携することが重要であり、詳細な調査の中で計画を立てていく必要があります。

ランドブレイン 井口

近隣市町からのデマンドの相互乗り入れの話もあるが、車両台数1台で賄っていくことは難しいと考えられる。一方で、一般タクシー利用の推進も必要である。そのあたりを含め、機能分担としてエビアミー号を利用する人と一般タクシーを利用する人という棲み分けも必要であると考えられる。エビアミー号は一般タクシーよりもサービスが良かったため、受益者負担の料金改定も検討の必要があると考えられる。更には、一般タクシーだけではなく、市町村連携といったところでは鉄道、一般タクシーも含めながら乗り合いタクシーのあり方も検討するべきではないかと思えます。こちらについては、事業として今後検討していきますが、事務局と調整させていただき、ご提案で

できればと思います。

石田会長

ありがとうございました。エビアミー号をもう一台増やすということ、あるいは料金改定も検討課題であろうということで、整合性を図る必要があると感じました。

事務局（柴原）

町が実施するエビアミー号だけでは限界があるので、地域にある様々な事業者の皆様と連携を図りながら、そして近隣市町村とも連携を図りながら掛け合わせて事業を実施していきたいと思います。

石田会長

連携を深めるということで、関連事業者とうまく共生していく必要があります。より一層の地域公共交通の計画策定のためには、意見交換をして計画を作っていく必要があります。千葉県タクシー協会何か意見はあるか。

松本委員

特にありません。

堀川委員

30 ページの利用しない理由で「自動車のほうが便利だから」とありますが、これは若者も対象としていますか。利用している人や自動車を保有していない人のアンケートは合わせてとっていないのでしょうか。

事務局（柴原）

こちらはエビアミー号登録者のみを対象としたアンケートです。エビアミー号を実際には利用していないが、とりあえず登録している人もいます。自動車が便利だと回答している方は、将来に向けて登録はしているけれど今現在エビアミー号を利用しなくても運転できるという方です。実際の利用者ピンポイントを対象としたアンケートは実施していません。

堀川委員

高齢者や足の悪い人は必要な時以外外に出ていません。全体から見ると車を運転できる人はエビアミー号を利用していません。私自身も高齢者だが、エビアミー号を実際利用するのは年に1～2回くらいです。資料を見ると利用者が少ないように感じました。

石田会長

8ページ以降、各交通手段(鉄道、高速バス、路線バス、エビアミー号)の現状が載っており、鉄道については徐々に回復しつつあると記載があります。駅のバリアフリー化については、JRは現在この線橋が老朽化しているが、耐震補強や建て替えをする考えがないということです。エレベーターの設置を考えていたが難しいそうである。同時に線路の平面横断の研究を進めています。御宿町の現状をみると、高齢化率は県内第1位ということで、役場の西側にある御宿台の団地では62%の高齢化率となっています。階段等、上り下りが困難のため、駅があっても駅を利用できない方もいるため、改善していかなければいけません。高速バスについては、例えば令和4年で67,599人、御宿町から出るバスが1日3便。67,599人ということは、単純に365日1日3便で割

ると1日60人になるが更に往復なので2で割って1便の利用は30人程度でしょうか。

ランドブレイン 井口

オフシーズンオンシーズンはあると思いますが、平均するとそのくらいの利用者が1便あたりいると考えられます。

石田会長

一般タクシーはエミタスタクシーに営業してもらっています。御宿台は高台にあるため駅から徒歩20～25分ほど坂道が多いのでタクシー利用者も多い状況です。タクシーは夜早く終わるので、少し遅くなるようであれば予約等をしてもらうなど、地元の方会社の方々にはご迷惑をおかけしています。エビアミー号を運行する場合公共利用者との連携が必要になります。他にご意見がないようであればこの議案は議決されたものとし次に移ります。

議題(2) ワークショップの開催について事務局から説明をお願いします。

事務局(長谷)

ワークショップについては、各地域の現状や公共交通に関する意見を聞く場として実施します。参加者は、公共交通利用者をはじめ、高齢者や移住者、子育て世代、中高生などを想定し、様々な立場の方々が意見しやすいような雰囲気をつくりたいと考えています。

テーマは3つとし、

- ① 日常生活における移動の困りごとについて
- ② 「困りごと」を解決するための方法
- ③ その中で地域の皆さんができること

このようなテーマの中で多くのご意見をいただき、新たな課題の発見や問題解決策のヒントになるような意見がでることを期待しています。

その他の詳細はランドブレインから説明をお願いします。

ランドブレイン 井口

今後さらに高齢化が進む中で、地域の皆さんでどういう取組ができるのかについて意見交換を行います。国でも地域自らデザインする地域公共交通、地域住民主体の移動手段というキーワードもあるため、住民の生の声や意見を徴収していくことを目的とします。また、配布資料としてエリア別カルテの準備をします。今回調査した結果を1枚にまとめたものを用いて、まずは皆様がお住いの地域の現状を知っていただくことで、モビリティ・マネジメントも目的の一つとしてこのワークショップを開催できればと考えています。

石田会長

ありがとうございました。

このことについて、委員の皆様、なにかございますか。

小林委員

ワークショップの結果については、交通計画の中に反映をしますか。

ランドブレイン 井口

ワークショップの結果については、アンケートで量的に出てくる数値を補完するための定性的指標としてまとめる予定である。地域住民主体という取り組みの中で例えば御宿台で実施可能なのか、もしくは里山エリアで実施可能なのか、ケーススタディのような事業の位置づけもしていくことを考えています。また、実際に行う際には組織化も必要になってくるため、そうした事業も想定していきたいと考えています。

小林委員

結果を載せるということはありませんか。

ランドブレイン 井口

19 ページにエリア別にまとめていく予定です。

石田会長

その他ご意見がないようであれば4.その他に移ります。事務局は何かありますか。

事務局（柴原）

特にありません。

石田会長

議題についてはすべてご承認いただきました。ありがとうございます。
以上で協議会を終了します。お疲れ様でした。